

第5回 みなまた地域創生ビジョン研究会議事次第

日 時：平成28年8月1日（月）17時30分～19時30分

場 所：水俣環境アカデミア（水俣市南福寺6-1）

議事次第：

1. 開会
2. 議事
 - (1) 第4回の意見の概要報告について・・・資料2
 - (2) めざす地域社会像等について・・・資料3、資料4
 - (3) 3世代育み健やかタウンを実現するための施策について 資料5
 - (4) その他
3. 閉会

配付資料：

- 資料1 委員名簿
- 資料2 第4回の意見の概要
- 資料3 めざす地域社会像等について
- 資料4 用語の定義
- 資料5 3世代育み健やかタウンを実現するための手段（施策例）

参考資料1 交流の場（マッチングポイント）の参考イメージ

みなまた地域創生ビジョン研究会 委員名簿

(50 音順、敬称略)

- 石原 明子 熊本大学大学院社会文化科学研究科准教授
- 植木 誠 早稲田大学パブリックサービス研究所招聘研究員
- 勢一 智子 西南学院大学法学部教授
- 永松 俊雄 崇城大学教授
- 深水 陽子 深水医院副院長
- 藤本 有希 一般社団法人ハートリレープロジェクト ファウンダー
- 牧迫 飛雄馬 国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター
予防老年学研究部健康増進研究室長
- 松永 裕己 北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授

第 4 回の意見の概要

(1) (仮称) 3 世代育み健やかタウンのコンセプト (案) に
全体的に関わることについて

【牧迫委員】

- ・冒頭の「例えば」は、弱いのでなくてもいい。

【植木委員】

- ・「水俣は」、未来につないでいくまちを「めざします」とストレートに入ってくるように、「水俣」を一番最初にもってきた方がいい。

【永松座長】

- ・一文だと冗長感がある。二文にしては。
- ・冒頭か最後に「水俣」という言葉を入れることは、皆さんご了解いただけたと思う。

【藤本委員】

- ・「みんな遊びにおいで」と、外にも開かれるイメージがあるといい。

【石原委員】

- ・外に開かれるがゆえに、一般にきれいなところだけを見せていくことになる可能性がある。

【望月所長】

- 長いというご意見があったので、二つの文章にして、まず大きく目的を書いて、次にその方法論を書きたい。

(2) コンセプト（案）の用語

「子ども・その親世代・高齢者」について

【石原委員】

- ・「その親世代」は、あえて「親」とする理由は何か。「子ども・大人・高齢者」としては。
- ・「その親世代」は、世代だから親でなくてもいいということではあるが、大人であることの意味を「親」に置き過ぎている。

【植木委員】

- ・「その親世代」は、子どもとすぐつながるし、高齢者になると子育ても終わり、単体で世帯として独立しているという感じもする。
- ・多少〔親世代に〕フォーカスされていても、意図としてはあっていい。

【永松座長】

- ・一般に、子供、親、じいちゃん、ばあちゃんが3世代のもともとの意味だと思う。ただ、胎児のお話もされたので、正確に言うと、これだけではない。「3世代」として、まとめてもいいのでは。
- ・用語の説明のところで補う形で、事務局で再検討してください。

→事務局で再検討

(3) コンセプト（案）の用語

「みんなの健康（心や体・社会的な健康）」について

【牧迫委員】

- ・例えば「こころ・からだ・人とのつながり」のほうが全体の「健やかに」や「いきいき」にマッチする印象を受けた。
- ・補足説明がつくのであれば、コンセプトの中に括弧書きは必要か？
- ・「心と体と社会的」は、日本語的に変な気がする。「身体的、精神的、社会的な」の方がいい。

【石原委員】

- ・「社会的な健康」を入れたことを高く評価している。水俣の特性を考えた場合、単に健康の値が悪いというだけではなく、社会的な関係性、社会的な健康の問題というのが典型的にあらわれた地域である。

【永松座長】

- ・補足説明をつける形で、事務局で整理してください。

→補足説明をつけて事務局で整理

(4) コンセプト (案) のネーミング
「3世代育み健やかタウン」について

【石原委員】

- ・「健やか」と「育み」の位置を変えるともっといい。
- ・「健やかでないといけないのかというプレッシャーを感じる」という意見も聞く。〇〇タウンの〇〇は、状態ではなく、行動を指すのがいい。
- ・「3世代命育みタウン」は、水俣らしさが出る。健やかさが損なわれたが、それでも命を育ててきた。
- ・「健やかタウン」と言ったときに、障害を持っていても健やかに生きるというのはあるが、普通の人が言うところの「健やか」というところで覆ってしまって、水俣の本質が描けているのだろうか、という疑問が自分の中で湧いてきた。
- ・一見して、健やかでなくてもいいのではないか、弱くてもいいのではないか、それをどう表現したらいいのか、という悩みがあった。まだ答えが出ていない。「3世代育みタウン」で十分よかった。

【植木委員】

- ・事務局案でいい。

【牧迫委員】

- ・今回の趣旨は、「3世代を育む」のが主という印象なので、事務局案でもいい。

【藤本委員】

- ・「命」は、すごく重たい。その重みがわかるがゆえに、あえて出てくると。

【永松座長】

- ・育むのは、いろいろある。命だけではなく、交流も育む。
- ・今回のネーミングは、明日の水俣の絵、理想的な目指すべき将来像をあらわす言葉で、要するに目指す目的地なので、健やかでいいと思う。
- ・石原委員の話は、背景や現状として認識すべき事柄として出てくる。
- ・若干一言あるということも含めて、この「3世代育み健やかタウン」ということで一応進めていくということではどうか。

→「3世代育み健やかタウン」でご了解

(5) コンセプト (案) のサブネーミング

「美健のまちみなまた」「いきいきみなまた」について

【石原委員】

- ・美健のまちの「美しい」という趣旨は、例えば「命育む環境のまち」のほうがいい。

【藤本委員】

- ・「美しい水俣をつくる」のように、目標に置くのはいい。
- ・「みんなまちのたから」はどうか。
- ・弱い人も強い人も、子供も大人も、みんなこのまちの宝物だという「みんなまちのたから」で「みなまた」。

【植木委員】

- ・「みんなまちのたから」もいいが、「美健のまちみなまた」を出している。
- ・欠席の委員にも投げかけて、もう1回フィードバックしてはどうか。

【牧迫委員】

- ・「みんなまちのたから」で「3世代育み健やかタウン」、もしくは「美健のまちみなまた」の場合は「健やか」を外してもいいだろう。

【永松座長】

- ・今回は、「環境」の要素がいるのだろうか？
- ・第三者の目を見て、決めたほうがいいと思う。
- ・新しい案を植木委員にぜひ考えてほしい。

→さらに検討、継続

(6) 標語について

【石原委員】

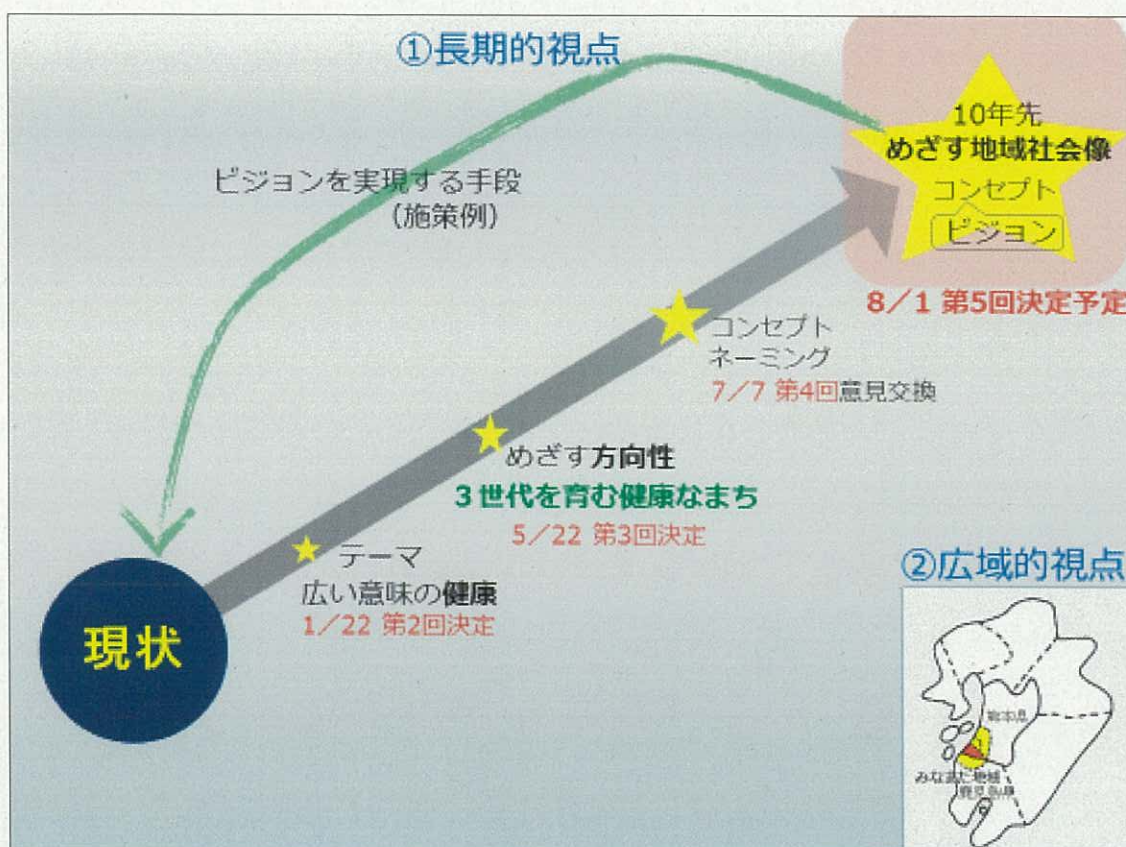
- ・「みんなまちのたから」というのと「美健」と二つの候補が出たので、それによっても10年先のイメージが変わる。
- ・「美健」という言葉について個人的には、前回の研究会で「美しい」という言葉は、水俣の中で若干の立場によるアレルギーというか難しさのある言葉なので、ほかの方がいいのではないかという話をした。

【永松座長】

- ・標語をもう少し詳しくすると、全体像が視覚的なイメージを持って理解できる。たとえば、どういうところでどんな交流があると書き込んでいくと、全体のイメージができてくる。
- ・ネーミングと標語の違いがわかりづらい。

【望月所長】

→標語は事務局で改めて検討します。



スケジュール予定

8月1日	めざす地域社会像のコンセプト、ビジョン決定 ビジョンを実現する手段 (施策例) 意見交換
9月メド	ビジョンを実現する手段 (施策) 決定 研究会報告書 骨子案 意見交換、決定
11月メド	研究会報告書 要点 意見交換、決定
1月メド	素案 意見交換、決定
年度末メド	案 意見交換、決定

3世代育み健やかタウン (コンセプト)

水俣市は、日頃からの**交流**により、3世代が幸せを実感しながら、みんなの健康(身体的・精神的・社会的な健康)をより良く**育み**、未来につないでいくまちをめざします。

そのため、子どもや親世代が**すこやかに成長**し、高齢者が**いきいきと充実**した日々を送れるように、多種多様な交流の場を設け、楽しみながら健康を増進できるようにします。

(ビジョン)

水俣市では、多種多様な**交流**が日頃から重ねられ、それぞれの世代の課題(たとえば低出生体重児、子どもの肥満、生活習慣病等)の解消を図るとともに、楽しみながら健康(身体的・精神的・社会的な健康)を増進している姿がみられます。そして子どもや親世代が**すこやかに成長**し、高齢者が**いきいきと充実**した日々を過ごしています。

これらの取り組みを続けることにより、3世代が幸せを実感しながら、みんなの健康をより良く**育み**、未来につないでいく健やかなまちになっています。また、水俣病の教訓から「環境」と「健康」の両面に優れたまちを創りだしている市民の笑顔がこぼれています。

市では、環境被害を受けたまちの先駆けとして、まちの魅力や市民による活動を、水俣環境アカデミアや水俣病資料館を活かして子ども世代につなぎ、国内外に広く伝えています。

ビジョンを実現する手段(施策例)

水俣にあるものを活かして、交流の場(マッチングポイント)を設ける。多くの市民がコンビニ感覚で、好きな所を数か所選んで気軽に利用できるようにする。

マッチングポイントでは、曜日や時間、メニューが様々な用意され、日頃からすべてのライフステージを対象とした交流が、自主的に活発に行われるようにする。

用語の定義

各用語の定義は、以下のとおりとする。

・ 3 世代

- (1) 3 世代とは、胎児～高齢者まで、すべてのライフステージを対象とし、子ども・親世代・高齢者の 3 つに大別する。
- (2) 3 世代というのは、現在の 3 世代とともに、未来の世代にもつないでいくという意味がある。例えば、胎児は体内に卵子をもっているため、妊娠中の母親の生活が将来の 3 世代(母親・胎児・その子)を育むことになる。

子ども

子どもとは、乳児期、幼児期、学童期（小学生 6-12）、中高生（13-18）とする。

親世代

親世代とは、成人期（青壮年期：概ね 19-39、中年期：概ね 40-64、妊娠期）とする。

高齢者

概ね 65 歳以上とする。

・ 育み

育みとは、子ども・親世代・高齢者が「交流」による相乗効果により、それぞれの課題（たとえば低出生体重児、子どもの肥満、生活習慣病など）の解消を図りつつ、健康（身体的・精神的・社会的な健康）を増進していること。

・ 健やかタウン

健やかタウンとは、顔の見えるコンパクトな環境のまちで、3 世代の育みにより、幸せを実感しながら、みんなの健康（身体的・精神的・社会的な健康）を未来につないでいくまちをいう。

・ 健康

健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいう（日本 WHO 協会訳）。

なお、社会的な健康については、厚生労働白書においては、「何が『社会的』なものであるかについて定義されているわけではないものの、近年、

社会的に孤立する人が増えていると言われており、「つながりの希薄化」が取上げられ、その具体例として「家族のつながり」と「地域のつながり」が挙げられている。そして「社会と健康」について、「人と人とのつながりが強く、お互いが助け合う風潮のある地域の方が、健康でかつ医療費が少ないとも言われており、多くの人々が望むように、地域のつながりを再生し、助け合いの社会を実現することが重要である。」と言及されている。(平成26年版厚生労働白書)

・多種多様

多種多様とは、数や種類が多いさま、バラエティに富む状態をいい、水俣市民をはじめ、周辺の市や町、国外からの研修生や留学生などにも開かれた交流がフレキシブルに行われることをいう。

・交流の場（マッチングポイント）

交流の場とは、3世代の人たちが互いに行き来し、さまざまな物事のやりとりが行われる場をいう。水俣市内のあちこちに、水俣にあるもの（場、人、しくみ）を活かして、多種多様に設けられ、曜日や時間、内容が様々に用意されていて、コンビニのように好きな所をいつでも気軽に利用するイメージ。このような場を、交流の場（マッチングポイント）と称する。

・すこやかに成長（子ども）

すこやかに成長とは、子どもが安心して近所で遊べて、食事や睡眠の生活リズムが良くなり、心身ともに充実しつつ成長していることをいう。

たとえば、人との関わりの中で、愛情や信頼感、やさしさや思いやりを強く有し、地域での良い記憶や実体験が豊富になり、生活力も向上している状態をいう。

・すこやかに成長（親世代）

すこやかに成長とは、親世代が一次予防として生活習慣の改善や健康増進に努めており、また二次予防として健康診断や保健指導を受診するなど、常に健康を意識しながら地域の担い手として成長していることをいう。

たとえば、地域での良い記憶や豊富な実体験、自主的な会への参加など、地域における連携を通じて、地域への愛着心を深め、生活の知恵が受け継がれている状態をいう。

・ いきいきと充実（高齢者）

いきいきと充実とは、高齢者が自らの健康に配慮しつつ、知識や技能、スポーツや趣味などを活かして、人の役にたち、居場所を見つけて、生きがいを感じていることをいう。

マッチングポイントの例

- ①遊び場（広場、公園、子どもセンター、保育園、幼稚園）
- ②ふれあいの場（デイサービス、地域リビング、本よみ場、茶のみ場、もやい館、ふれあいセンター、理美容室、公民館）
- ③自主的な会の場（ふ・ふ会、夢語り8コマ劇場）
- ④田舎体験予備校、中学生サミット
- ⑤各種イベント（もやい音楽祭、まちゼミ）
- ⑥その他：ごみの分別

交流の事例（これまでのご意見）

- 高校生による自分プロジェクトの実施
- 島根県海士町：島前高校魅力化プロジェクト
行政や地域住民などを巻き込んだ地域総がかりの教育に挑戦。
島全体が「学校」、地域の方も「先生」。
- 高浜市「健康自生地」生涯現役のまちづくり事業。
居場所づくり助成金、自生地の担い手にもボランティアポイント。
- 「姪浜西南大学まち」プロジェクト。交流の場「M'sコミュニティ」を開設2015.10。ふらりと立ち寄れるおしゃべりカフェ、ベビーマッサージ講座、自由に歌う歌声カフェなど。角打ち。
- 高校生による休耕田の復活
- 退職者の積極的参加（教員OBなど）
- 大学生、高校生の積極的参加

マッチングポイントでの工夫例

- ①遊び場：市に登録した遊びコーディネーターや見守り隊。
名札・バッチ着用。地区ごと遊び場マップ作成。
遊びの種類・コーディネーターのいる時間示す。
情報をスマートフォンで検索できるようにする。
- ②ふれあいの場：参加者が教えあいながらにコースター作成、
童謡の歌唱、紙芝居で楽しむ。
作成したコースターをお土産として持ち帰る。
家族に話し、友達に自慢、口コミで参加者増やす

マッチングポイントでの交流の目標例

- ①子どもが、他世代と多くの関わりの中で、愛情や信頼感、やさしさや思いやりを強くもつようになり、地域での良い記憶や実体験を重ねて成長できるようにすること。
- ②親世代が、子どもとの遊びなどを通じて健康増進にも努め、健康診断や保健指導を受診するなど、常に健康を意識しながら地域のリーダーとして成長するようにすること。
- ③高齢者が、自らの健康に配慮しつつ、知識や技能、スポーツや趣味などを活かして、人の役にたち、居場所を見つけて、生きがいを感じながら生活できるようにすること。

目標達成のための検討事項の例

- ・数年間継続的、定期的に行うために必要なこと。
- ・市や公的機関が何をどこまで行うのか設定する。
- ・リーダー、担い手の育成目標を設定し、研修を実施する。
- ・交流メニューのモデルプログラムを作成する。
- ・参加者が自発的に取り組みたくなるための方策を複数用意する。
- ・子どもが参加したくなるものにする。
- ・高校生、大学生に活躍の場をつくる。
- ・マッチングポイント間の相乗効果を考える。

★勢一委員

「姪浜西南大学」の情報

facebook

<https://www.facebook.com/meinoseinan/>

ブログ版

<http://meinoseinan.seesaa.net/>

(参考) 西南学院大学の教育研究支援プログラムについて

http://www.seinan-gu.ac.jp/education_research/gp.html#incubate

ご関心がありましたら、プログラム担当者の経済学部の小出秀雄教授をご紹介しますので、お知らせください。

武雄市「よりみちステーション・くむくむ」

<https://www.facebook.com/kumukumu.takeo/>

★牧迫委員

NHK で地域づくりアーカイブスとして、さまざまな活動を取り上げています。

<http://www.nhk.or.jp/chiiki/>

高浜市「健康の自生地」の情報

<http://www.city.takahama.lg.jp/grpbetu/geneki/shigoto/hokotouch/jiseichi&hokotouch-top.html>

<http://healthmore.jp/exercise-lifestyle/189/>

<http://www.city.takahama.lg.jp/grpbetu/geneki/shigoto/deide-ru/vol9.pdf>

★藤本委員

夏休みいなか学校の情報